

都市の魅力

持続可能で魅力的な国土形成を目指して

オンライン同時配信

参加費 **無料**
定員 **100名**

要申込、先着順

日時

3月27日(水)

13:00-15:00 (12:30開場)

会場

神戸国際会議場 501

神戸市中央区港島中町6丁目9-1 神戸国際交流会館5階
<https://kobe-cc.jp/ja/visitors/access/>
※Zoomウェビナー機能によるオンライン同時配信あり



● 登壇者



明治大学 名誉教授
市川 宏雄



建築家・
東京藝術大学 准教授
藤村 龍至



神戸大学大学院工学研究科
建築学専攻准教授
栗山 尚子

参加申し込み ▶

[https://forms.gle/
oTTHZRc4pU3ovQ69A](https://forms.gle/oTTHZRc4pU3ovQ69A)



お問い合わせ ▶

iusall@mori-m-foundation.or.jp

<オンライン視聴をご希望の方>

オンラインでの配信は、Zoomウェビナー機能より行います。Zoomアプリケーションやアカウントをお持ちでない場合もブラウザから視聴頂けます。お申し込み受付完了後、ZoomウェビナーURLをお送りします

主催：森記念財団 都市戦略研究所

● 趣旨・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。そのためには、各都市が現在の都市の魅力、歴史的・文化的・地理的なコンテキストも含め

て客観的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、実行にしていくことが求められる。

そこで、当連続シンポジウムの第6回目は、文化・交流で高い評価を得た国内有数の観光都市である神戸市が、今後どれだけ都市の魅力を高めていけるのか。そして、どのような戦略で都市の未来像を描いていくのか、神戸市で活躍されている都市の専門家とともに様々な側面から議論する。

● スケジュール

🕒 13:00-13:30

市川 宏雄

「日本の都市特性評価 2023」
によって明らかになった神戸
市の魅力と課題

🕒 13:30-14:00

藤村 龍至・栗山 尚子

神戸市の魅力と課題、過去・
現在・未来を見据えて魅力を
伸ばすための施策は何か

🕒 14:00-14:45

パネルディスカッション

課題を解決するためにすべき
ことは何か、各アクターの
役割とは

🕒 14:45-15:00

質疑応答

● 登壇者略歴

市川 宏雄

1947年東京生まれ。早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程、博士課程(都市計画)を経て、ウォータールー大学大学院博士(Ph. D.)。富士総合研究所(現、みずほリサーチ&テクノロジーズ)主席研究員の後、1997年に明治大学政治経済学部教授(都市政策)。2004年から明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長、この間に明治大学専門職大学院長、明治大学危機管理研究センター所長を歴任。世界の第一線の都市研究家と協働して、2008年から世界都市総合力ランキング(GPCI)を森記念財団都市戦略研究所で継続的に作成主宰し、2018年から日本の都市特性評価も開始、成長する大都市と衰退する地方都市の政策課題の分析をしている。東京都との関わりは30年以上にわたり、小池都政では「国際金融都市・東京構想に関する有識者懇談会」の委員として、アジアの金融センターとしての東京の地位確立に尽力。著書は30冊を超える。現在は、日本危機管理防災学会・会長、日本テレワーク学会・会長、大都市政策研究機構・理事長、日本危機管理士機構・理事長、森記念財団都市戦略研究所・業務理事、町田市・未来づくり研究所長、Steering Board Member of Future of Urban Development and Services Committee, World Economic Forum(ダボス会議)in Switzerlandなど、要職多数。

藤村 龍至

建築家・東京藝術大学准教授
1976年東京生まれ。2008年東京工業大学大学院博士課程退学。2005年よりRFA(藤村龍至建築設計事務所)主宰。2016年より現職。2017年よりアーバンデザインセンター大宮(UDCO)ディレクター。2000年代半ばより人文社会学系、美術や工学などの隣接分野との交流を踏まえ、建築界においてシンポジウムや展覧会などの議論の場を多数企画。理論「批判的工学主義」、設計方法論「超線形設計プロセス論」を掲げ、「日本列島改造論2.0」を発表し注目を集める。近年はそれらの知見をもとに、人口減少、高齢化、インフラ老朽化などの地域固有の課題解決に向けて戦略と戦術を立案、ワークショップや社会実験を通じて関係者と合意形成を図り、公共施設、福祉施設、交流施設などの設計、エリアマネジメント体制の構築までを手掛ける「ソーシャル・アーキテクト」として活動し、プロジェクトを多数展開。

栗山 尚子

神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授
1977年生まれ。神戸大学工学部建設学科卒業、同大学院自然科学研究科博士課程前期課程修了。2003年神戸大学工学部助手、2007年助教、2011年と2016年に米国ワシントン大学客員研究員を経て、2018年から現職。博士(工学)。一級建築士。建築学専攻に所属し、景観・都市計画に関する研究と教育に従事。神戸市内の団地再生活動(神戸市住環境整備公社との連携)にも取り組む。
兵庫県下の自治体の景観審議会委員(神戸市、芦屋市、西宮市等)、神戸市建築審査会委員、神戸市都市計画審議会委員ほか多数。
共著書に「いま、都市をつくる仕事」(2011、学芸出版社)、『景観計画の実践』(2017、森北出版)、『小さな空間から都市をプランニングする』(2019、学芸出版社)、『生きた景観マネジメント』(2021、鹿島出版会)、『建築計画のリベラルアーツ-社会を読み解く12章-』(2022、朝倉書店)、『図説 都市計画』(2022、学芸出版社)他。